

令和3年度 第1回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

日時： 2021年5月14日（金）16:00～17:00

出席者： 小田急電鉄株式会社

(敬称略) 学校法人工学院大学

住友不動産株式会社

損害保険ジャパン株式会社

大成建設株式会社

東京ガス株式会社

東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社

独立行政法人都市再生機構

株式会社 NTT ドコモ

KDDI 株式会社

株式会社 JTOWER

ソフトバンク株式会社

東日本電信電話株式会社

楽天モバイル株式会社

新宿区

東京都副知事 宮坂 学

東京都フェロー

東京都デジタルサービス局

東京都都市整備局

東京都産業労働局

開催方法： Web 会議

- 議題：
1. 開会の挨拶 《東京都宮坂副知事》
 2. 協議会参加者紹介
 3. 今年度協議会の進め方の確認
 4. 今年度仮説検証 PT の実施方針案の報告
 5. 課題解決 PT・都市 OS 検討 PT の実施結果及び中長期的な視点での検討の実施方針案の報告
 6. 今年度広報・巻き込み TF の実施方針案の報告
 7. 質疑応答・閉会の挨拶

資料： 1. 本編資料

1. 開会の挨拶（事務局）

■ 開会の挨拶（P.2）

（宮坂副知事）

- 本協議会は環境改善委員会と新宿区の協力の下、西新宿エリアの活性化に向けスマートシティを構築することを目的としている。官民ともに多様なプレイヤーが参画しており、協力して魅力的な街を作り上げていきたいと考えている。
- 2年目を迎えた今年度は、協議会として西新宿エリアの2-3年後のあるべき姿を共有し、昨年度の調査により明らかになった生活者の課題を解決するため、プロジェクトの立ち上げや分科会の設置により一体的な取組を実施していきたい。参加者全員で積極的に議論し西新宿をよりよい街にしていければと思う。
- 東京都としては国のデジタル庁にあたるデジタルサービス局が新しく立ち上がり、一つのチームとしてデジタル化を推進していく。特に西新宿エリアは本協議会を通じていち早くデジタル化を進めるべく取組んでおり、スマートポールやデジタルサイネージを設置してサービス提供を進めていく。生活者のQOL向上を図り、西新宿エリアならではの取組の実施により新型コロナウイルス収束後には世界から人が集まるような街にしていけるようご協力いただきたい。

■ 議事次第（P.3）

- 本日の協議会の目的は、西新宿スマートシティ協議会の目的の確認、今年度協議会の進め方の確認、各PT/TFの取組方針確認の3点である。
- 取組内容の親和性を考慮し、課題解決PTと都市OS検討PTは合わせて報告とする。

2. 協議会参加者紹介（事務局）

- 協議会参加者紹介（P.4）

3. 今年度協議会の進め方の確認（事務局）

■ 西新宿スマートシティ協議会の概要、会議体、位置づけ（P.5～11）

- 西新宿スマートシティ協議会の設立経緯としては、都は西新宿エリアを、「未来の東京」戦略においてデジタルの力で東京のポテンシャルを引き出す「スマート東京」の先行実施エリアと位置づけ、5Gと先端技術を活用した分野横断的なサービスの都市実装を目指している。この取組を進めるため、西新宿スマートシティ協議会を令和2年5月に新宿副都心エリア環境改善委員会とともに設立し、これまでに計4回開催してきた。また、昨年度は「西新宿スマートシティ協議会の運営」、「西新宿エリアの課題抽出」、「課題解決の推進」、「データの利活用」、「生活者の巻き込み」の5つの取組を行った。
- 本協議会は、西新宿エリアにおいて、デジタル技術の活用により、「人と人、人と都市」をつなげることで、西新宿に関わる人々のQOL（生活の質）向上に貢献することを目的としている。
- 本協議会の目的達成に向けて、5つの課題解決のテーマを設定し、西新宿エリアにて具体的な取

組を進めている。また、協議会としても運営方針を定めることにより、一丸となって目的達成に貢献すべく取組んでいる。

- 協議会の運営方針として3つ掲げている。1つめは、協議会としての将来像であり、「目指す姿の実現に向けた課題解決に資する、“デジタル技術を活用したアイデア・サービスが継続的に創出されるモデル”を確立していること」と定めている。2つめは、その将来像の実現に向けた果たすべき使命であり、「エリアのQOL向上のため誰もが失敗を恐れずスピード感を持って挑戦できる環境を作り上げること」と定めている。将来像と使命については、公共性を有し、未来への投資ができる行政の皆様がコミットをしている本協議会の特徴を踏まえたものと考えている。3つめは、使命を果たす上で大事にする価値観であり、西新宿エリアの特徴である多様な民間企業が連携するエリアである点を踏まえ、「エリア内外の官民多業種の組織・団体や、多様な個人が有機的につながり、互いの強みを活かすこと」と定めている。
- 取組を推進するため、西新宿スマートシティ協議会は3つの会議体区分を設け、運営している。取組方針の確認や運営方針の確認・合意を目的とした協議会、テーマ毎に取組の検討を行うためのPT/TF、各プロジェクト単位での討議や認識合わせを行うための分科会を設置している。
- 課題解決PTでは、「西新宿に関わる人のQOL向上のために、優先して解決すべき課題に対する施策を企画・実行する」ため、テーマ①～④を推進している。また、課題解決PTのサポートを目的として、都市OS検討PTと仮説検証PTを位置づけている。
- 都市OS検討PTでは、「データを基軸に、課題解決策を実行するために必要なエリア共通の基盤を企画し、整備する」ため、テーマ⑤の推進を予定している。昨年度はテーマ⑤を課題解決PTで行ったが、目的との親和性を鑑みて、都市OS検討PTにて推進していく。
- 仮説検証PTでは、「優先的に解決すべき課題」と「解決に向けたターゲット層」を抽出し、解決状況を確認する」ため、西新宿の生活者、商店街、テナントにアンケートの実施を予定している。
- 一方、広報・巻き込みTFでは、「協議会に対する興味・関心を喚起し、課題解決に向けた取組に協働してくれるエリア内外の生活者・企業を増加させる」ため、HPやイベントを通じた情報発信やSNS等を通じた協働を行うことを予定している。課題解決PTと広報・巻き込みTFは連携しながら進めていく。
- R3年度会議体実施スケジュール全体像（P.12）
- 協議会は年4回の開催を想定している。第2回協議会では、11月に都が実施する予定の普及啓発体験イベントと同時実施を予定している西新宿スマートシティウィーク（仮称）でのイベント企画の内容確認や商店街・テナントへのアンケート調査やインタビュー結果を踏まえた、西新宿の課題共有を予定している。第3回協議会では、西新宿スマートシティウィークにおけるイベント結果や実証結果等の報告に加え、課題解決PTや都市OS検討PTに係る取組の中間報告等を行うことを予定している。第4回協議会では、年間のまとめとして、検討成果等を確認するとともに、次年度以降の取組についての方向性等を確認することを予定している。
- R3年度以降の協議会メンバーの種別及び参加までの流れ（P.13）
- 西新宿スマートシティの課題解決に向けた各テーマのプロジェクトにおいて、本協議会の構成員の

所属団体・企業との連携を行いながら推進している。連携先を含めてより密に課題解決を進めるため、連携先の団体・企業にも協議会の情報共有と専門的な知見や技術等のご意見を頂けるよう、オブザーバー枠を新たに設置することを提案する。

- 特段の異論がなかったことから、オブザーバー枠の設置と参加希望者について承認された。

4. 今年度仮説検証PTの実施方針案の報告（事務局）

■ 仮説検証PTと課題把握アンケートの実施方針（P.14~17）

- 今年度の仮説検証PTは課題の解決状況を最新化し、優先的に解決すべき課題を明らかにすること、課題解決に向けた課題ごとのターゲット層を確認すること、また、課題解決の取組による効果を検証することをミッションとして運営する。そのため、実施事項としては、課題把握のためのアンケートと効果検証のためのアンケートを想定している。
- 課題把握アンケートについては、西新宿の生活者の課題を把握し、課題解決PTの取組への貢献を目指すアンケート①に加え、アンケート②にて広報・巻き込みTFで構築しているコミュニティへの参加を促すためにニーズの把握を行うことを予定している。また、アンケート③に記載の通り、西新宿の生活者のQOL向上の担い手である地元の商店街やテナントに対する貢献をしていきたいと考えており、商店街・テナントの皆様を把握するための調査を実施することを予定している。
- アンケート①と②に関しては、対象者が同様になるため、ひとつのアンケートでまとめて年度末に実施することを予定している。また、アンケート③の商店街・テナントにおける課題を把握するための調査は夏ごろに実施することを予定している。

5. 課題解決PT・都市OS検討PTの実施結果及び中長期的な視点での検討の実施方針案の報告（事務局）

■ 課題解決PT・都市OS検討PTの実施方針案（P.18~19）

- 課題解決PTは仮説検証PTで整理された課題に対する施策を実行することをミッションとし、2-3年の期間で進めるプロジェクトの企画や取組状況の報告等を行う。また、都市OS検討PTはデータ利活用に対する理解促進や論点の明確化、更にエリアの共通基盤を構築することをミッションとして運営し、西新宿エリアで構築するOSの考え方やデータ利活用案、テーマ⑤であるエリア共通基盤整備の実証企画や結果の共有を行う。また、昨年度同様に合同開催とする。

■ 短期実証実施結果の報告・R3年度の関わり方（P.20~21）

- 昨年度第4回協議会以降、株式会社NearMeによるどこでもドアチャトルの実証、株式会社コトブキ・大成建設株式会社によるソトウェルパークの実証が行われた。実施結果は後日ホームページに掲載する。また、各短期実証推進者にはそれぞれ中長期プロジェクトの立ち上げ・関与についてもご検討いただいたが、当面はSlackに継続参加する形で関与いただく予定である。

■ 中長期的な視点での検討の実施方針共有（P.22~25）

- 中長期的な視点での検討テーマ及びプロジェクトは5つのテーマを軸としている。テーマ⑤については今年度から都市OS検討PTの検討対象テーマとして位置づけている。協議会の目的を踏まえ、5つ

のテーマごとに目指す状態を協議会で設定し、各テーマの下に複数のプロジェクトが立ち上がる構造となっている。各プロジェクトにおいてもそれぞれ2-3年後の目指す姿を設定し、施策を進めていただく。

- まずは各テーマにおいて一つずつプロジェクトが立ち上がる。新たなプロジェクト立ち上げ等の希望は四半期ごとに期間を設けて受け付ける予定である。

—以下各プロジェクトの説明（事務局）—

テーマ① 地域の魅力創出（P.26～28）

- 本テーマにおいては、「平日・休日や時間帯を問わず、西新宿の特性を活かしたコンテンツを提供・体験し、楽しんでいる状態」を目指したいがいが。
- 異論がないため、この定義の下で取組を進めることとする。

（小田急電鉄株式会社）

- 新宿WoWプロジェクトとして、地域の魅力創出を図るプロジェクトを立ち上げている。地域資源・地域イベントを活用することで魅力的なコンテンツの発掘や創出を図り、コンテンツ間の連携を促進し、地域の魅力が生まれるプラットフォームとしていきたいと考えている。初年度はキャンドルイベントや映画イベント、ビアガーデン等の既存イベントを活用しつつ、新しい取組で盛り上げていきたいと考えている。
- 9月ごろには、ビアガーデンを活用し、スマートシティの様々な取組を共有するビジネスピッチのようなカジュアルなセッションとしてWoWセッションを開催したいと考えている。9月ごろに新型コロナウイルスの収束状況を考慮しつつ開催できるように検討している。
- WoWシネマについても新型コロナウイルスの状況を考慮しつつ参加人数を制限し、VR映画の体験ブースも設置して開催できるように検討している。また、地元の飲食店にご協力いただき、屋台形式にて出店いただくことで地域貢献をしていきたいと考えている。
- 効果検証としてはスマートポールを用いて人流データの分析を検討している。また、情報発信としてもサイネージを活用し、生活者とのインタラクティブなコミュニケーションを図るための施策を計画している。今後もイベントや参加事業者を増加させ、体験ユーザー数の増加につながるように計画を推進していく。

テーマ② 認知度向上・地域への参画促進（P.29～31）

- 本テーマにおいては、「個人のニーズに合った情報や地域内コミュニティ活動の情報が手に入ることで「人と人」「人と都市」が繋がれる状態」を目指したいがいが。
- 異論がないため、この定義の下で取組を進めることとする。

（東日本電信電話株式会社）

- 人と人のつながり創出による西新宿の魅力再発見や拡散・認知度向上につながるコミュニティ形成

を推進していきたいと考えている。昨年度はビジネスパーソン中心のコミュニティを形成することで、コミュニティ参加者からの高い満足度を確認することができた。

- 今年度は居住者や学生等の方々を巻き込み、3つのコミュニティ形成を進めていく。6-7月にコミュニティを募集し、8月頃から実際に活動を開始するスケジュールで推進し、西新宿の魅力拡散に貢献していきたいと考えている。
- テーマ①の取組等、他プロジェクトとも連携し、提供コンテンツや実施場所について協力いただきながら推進していく。

テーマ③ 移動環境の整備 (P.32~34)

- 本テーマにおいては、「誰もがニーズに合った移動方法を選択し、ゆとりある空間で、安心・快適にエリア内を移動できる状態」を目指したいがいが。
- 異論がないため、この定義の下で取組を進めることとする。

(損害保険ジャパン株式会社)

- 昨年度の仮説検証PTで明らかになった課題である、3密を回避しながらの移動や回遊性の向上を目的として、次世代モビリティプロジェクトを実施していく。5G通信を介して自動運転車両と信号等のインフラを連携することで、街づくりと一体となって特に新宿駅から新宿中央公園までのルートの回遊性向上に励んでいく。新たに参加いただく予定のモビリティ事業者とも連携し、取組の推進に向けて検討を進めている。
- 2023年の自動運転MaaS実装に向けて取組んでいく。移動とは、モビリティ単体では成立せず目的の地と一体となったテーマであるため、他プロジェクトとも連携していきながら取組んでいきたいと考えている。

テーマ④ 新たなワークスタイルの確立 (P.35~37)

- 本テーマにおいては、「特定のオフィスに限らず快適に働ける環境があり、エリア内外のワーカーが高い生産性で働けている状態」を目指したいがいが。
- 異論がないため、この定義の下で取組を進めることとする。

(KDDI株式会社)

- 新たなワークスタイルの確立をテーマに、5-10年先のワークスタイルを念頭にプロジェクトの検討を進めていく。解決を目指す課題としては必要な時にチームで集まって議論できる環境の確保や、普段出会わない社外の人とのビジネス交流の創出を想定している。そのため、2-3年後の姿としては都市に集いたくなるセレンディピティのある快適な場所や多様な働き方を支える場所があることを目指している。
- 取組概要としては、XR等の先端技術を備えたワークスペースの構築によるクリエイティブな発想につながる環境の構築と、企業・自治体を超えたジョブマッチングプラットフォームの構築を推進していく。

- 初年度は副業実施者へのヒアリング等によるコミュニティ構築と予備実証を実施し、2年目に参加企業募集等を含めた本格的な実証を進めていきたいと考えている。

テーマ⑤ エリア共通基盤の整備 (P.38~42)

- 本テーマにおいては、「エリア内の実証や各種サービス実装に必要な共通基盤（ハード・データ・ルール等）の利活用が円滑かつ迅速にできる状態」を目指したいがいが。
- 異論がないため、この定義の下で取組を進めることとする。
- 国内外においてはデータ利活用を促進する様々な取組が行われているが、主に自治体が主導する形で都市OSの構築が進められている。一方で、国内の都心エリア、例えば大丸有エリア等では、エリアマネジメント組織が主導する形でエリアに特化したエリアOSの構築が始まっている。本テーマにおいてはエリアマネジメント活動の高度化、ひいてはエリア価値の向上を企図し、エリア関連データの連携基盤であるエリアOSの構築を目指す。
- エリアOSの位置づけとしては、生活者にサービスを提供するプレイヤーに対して、アセット保有者が有するデータを活用した支援を行うことを想定している。

(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)

- 西新宿TSUNAGUプロジェクトとしてエリア共通基盤整備のプロジェクトを立ち上げている。テーマ①～④の各サービスを下支えできるよう、オープンスペースとデータに関する共通基盤を構築していきたいと考えている。昨年度は、実証に活用可能な場所の確認と調整が困難であったため、エリアOSを構築することで実証と場所のマッチングをシステム化していく。
- オープンスペースに関するデータを収集してダッシュボードで可視化するのみならず、利活用におけるルールとプロセスを作成することでサービスとなる事業者が持続的に活用できるシステム環境の構築を推進していく。また、昨年度の実証を通じて判明した、各ビルにオープンスペースの詳細な活用ルールについてもエリアOSに連携し、事業者とのマッチングにつなげていきたいと考えている。今年度は10件の実証を行うことを目標としている。

■ 西新宿エリアにおける東京都デジタルサービス局の取組み (P.43)

(東京都 デジタルサービス局)

- 西新宿のスマートシティ化に向け、現在スマートポールと自動運転、キャッシュレスの取組を実施している。スマートポールと自動運転については4月にプロジェクトや事業者募集を開始している。キャッシュレスの取組についても商店街と連携した実証に係る協力事業者の募集を実施しており、昨年度第4回協議会にてご報告している。現在、緊急事態宣言を受けて実証を延期しているが、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ推進していく。

■ 西新宿の課題解決に向けた今年度の進め方案に関する討議 (P.44)

- これまでの説明を踏まえ、「各検討テーマのプロジェクトの更なる魅力向上、円滑な推進のため、各

プロジェクトへのご支援やプロジェクト間における協調が可能な点」について、皆様からご意見をいただきたい。

—以下討議内容—

(発言者 A)

- いくつかの都市においては、単にシステム等を導入するのではなく、生活者のQOLやWell-beingのデータを収集することにより実際に快適度の向上につながっているかの確認を行い、他都市と比較した強み弱みについての把握を進めている。グローバルでのフレーム化の取組も行われており、これらの枠組みも活用しつつ西新宿における取組の効果を評価するとよいのではないかと考える。

(発言者B)

- 生活者のWell-beingについてどの程度向上できているかを客観的に示せるとよいと考える。主観的なアンケート調査は既に実施済みと認識している。一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが中心となり、グローバルフレームワークをもとに日本に最適化したフレームワークの構築を進めている。検証内容を大きく分けると、客観指標と主観指標について確認を行う。客観指標の例としては徒歩圏内の病院の有無、健康的な食品の入手容易性、仕事の探しやすさ等を調査する。主観指標については、各個人が幸せと感じているか等の項目を、アンケートにて調査を行う。各自治体間にて比較可能であり、ランキング化を目的とするのではなく各自治体の特徴を把握することに活用できると考えている。必要があれば別途説明の場を設けさせていただく。

(発言者 C)

- 幸福学の教授も参画している取組であるため、そのような方々にもプロジェクトに参加いただくとアンケート内容のブラッシュアップにつながるのではないかと考える。

(発言者D)

- まさにこのような効果検証が必要であると考えている。スマートシティは本来的に人のQOL向上のために実施するものであると考えている。現在、西新宿では500人程度の生活者の皆様にLINEコミュニティへご参加いただいております。コミュニティメンバーの自己実現につなげることで幸福度が向上するのではないかと考える。スマートシティの推進においてはデジタルの活用も重要であるが、目的はあくまで生活者の幸福度の向上であると考えているので、3年間でプロジェクトを推進していければと思う。

(発言者E)

- 協議会全体における実施スケジュールについて、商店街に対する課題把握に向けたアンケート等で情報を集めることについては賛同する。新型コロナウイルスの感染状況を考慮しつつ、商店街の事業者にも配慮してアンケートを実施するべきである。

6. 今年度広報・巻き込みTFの実施方針案の報告（事務局）

- 広報・巻き込み活動における今年度の進め方案（P.45～48）
 - 広報・巻き込みTFでは、協議会の取組に協働していただける個人・企業とのつながりをつくり、コミュニティ化すること、協議会の方針に共感し、主体的に取組を企画・実行していただける個人・企業を増やすことをミッションとして、意見交換会やホームページ等を活用した情報発信を行っていく。11月には様々な取組をまとめ、西新宿スマートシティウィーク（仮称）としてイベントを行うことを予定している。
 - 活動の企画案としては、PTメンバー間の勉強会やコミュニティメンバーとの意見交換会、有識者や著名人を招いた基調講演等を新たに実施できればと考えている。
 - 西新宿スマートシティウィークは、課題解決PTにおいて立ち上がる中長期プロジェクト間の連携や、西新宿エリアにおける既存の取組との連携を図ることで、プロモーションのインパクトを創出したいと考えている。協議会の皆様にも是非ご賛同・ご協力をいただきたい。
- 広報・巻き込み活動における今年度の進め方案に関する討議（P.49）
 - 広報・巻き込み活動についても、皆様からご意見を頂戴できないかと考えている。コミュニティメンバーを巻き込むための活動案に対するご意見や、西新宿スマートシティウィークをより魅力的にするため、もしくは各社様の取組にて活用いただくためのご意見等をいただきたい。

—以下討議内容—

（発言者F）

- 西新宿におけるコミュニティの活用には可能性があると考えます。西新宿は複数の事業者でタウンマネジメントを行っているため多様性に富み、またLINEコミュニティに500人程度が参加いただいている等の基盤も構築されており、コミュニティが持続するために必要な学びや楽しさの起点になると考える。東急電鉄様が二子玉川でcommonというコミュニティアプリの配信を開始しており、地域住民や生活者が登録することで、地域の「楽しさ」や「学び」を共有する場として活用されている。近しい取組であるため、今後のコミュニティの拡大や活用に向けて参考にできるのではないかと考える。
- 西新宿スマートシティ協議会設置要綱（改正案）（P.50）
 - 今年度の東京都における担当部局の変更に伴い、第6条に変更が必要となっている。本内容について特にご異論がなければ、本日より本改正案を施行とさせていただきます。

7. 質疑応答・閉会の挨拶

閉会の挨拶（P.51）

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

- 今年度からは中長期プロジェクトが開始しており、このような取組が自発的に行われていることに感銘を受けている。今後はコミュニティにおいても自発的に取組を行えるよう推進していきたいと考えている。東京都にもご協力いただきつつ、エリアOSの構築によるオープンスペースの活用も進めて行き

たいと考えている。環境改善委員会としても積極的に協力させていただきたくらばと思う。新型コロナウイルスの感染状況も見つつ、交流会も実施できらばと考えている。

以上